

## (株) 関西新幹線サービックと団体交渉を開催！

10月19日、地本は関西新幹線サービックと「発」第1号に基づき、団体交渉を開催しました。

参加者は、組合側は畑野本部副委員長、三田地本副委員長、西地本組織部長、上田関西地区副分会長、会社側は、尾浦企画部担当部長、友繁人事部担当部長、山中事業部管理課長、藪中人事勤労課係長でした。

### \* 「発」第1号（新型スロープ不具合解消に関する申し入れ）

8月9日、新大阪駅において車いすのお客様が90Aに乗車する際に、スロープとホームの接する部分の段差による衝撃で膝の上に置かれていたお荷物が落下するといった事態が発生した。

現在使用している新型スロープは2020年6月に配備されたが、スロープとホームの接する部分に段差があり、乗車時に車いすの前輪が段差に引っかかり衝撃が発生する。また、車いすを引っかかった状態で強く押すと前のめりに転倒する恐れがあり、車いすのお客様の安全上において問題がある。

さらに、新型スロープの不具合に対して、車いす担当者の対応に任せているだけで、新型スロープの不具合解消を行っていないことも問題である。

今回の事態はまさしく危惧していたことが起こったことになる。

関西新幹線サービックに対して、新型スロープ不具合解消にむけて「発」第3号（新幹線ホームの新型車いす用スロープの不具合改善に関する申し入れ、2020年10月28日）を申し入れているが、不具合解消には至っていない。

よって、下記のとおり申し入れるので早急に団体交渉を開催すること。

#### 記

1. 8月9日に発生した事態について、関西新幹線サービックとしての見解を明らかにすること。また、新型スロープの不具合（スロープとホームの接する部分の段差）に対する見解も明らかにすること。

【会社回答】

当該事象は、係員がまごころサービスブックに記載されているように前輪を上げる対応を行わず、強引に車いすを押し込んだことに起因することを認識している。尚、現行のスロープに安全上の問題はない。

2. 現時点における新型スロープの不具合（スロープとホームの接する部分の段差）解消に向けた状況を明らかにすること。

**【会社回答】**

現行のスロープは車いすの大型化・重量化に対応するために必要な補強措置を施した結果として厚みが増している物と聞いており、不具合であるとは考えていないが、耐久性の維持とスムーズな乗降の両立を前提に、ホーム端部の改良について検討を進めてきたところであり、今後、近い時期にホーム側端部の具材を交換する形で改良を実施する予定であると聞いている。

3. 早急に新型スロープの不具合（スロープとホームの接する部分の段差）を解消すること。

**【会社回答】**

2番と同じ

**【若干のやり取り】**

組合：8月9日の事象は担当者がまごころサービスブックに書かれている対応が出来なかったことがお客様との大きなトラブルになったということか。そう本社が考えているということか。

会社：はい。

組合：担当者がまごころサービスブックに書かれている対応が出来なかった、段差で前輪を上げると書いていることが出来なかった。前輪が当たっているにも関わらずそのまま押し込んだ、だからお客様の私物が落ちたということか。

会社：今回のことは、繰り返し行っているうちに落ちた。

一回目でまごころサービスブックの対応をしていたら良いと思います。

組合：それで、お客様の私物が落ちたということでよいか。

会社：それに尽きます。

組合：まごころサービスブックの51ページに書かれている移動・段差越えがあつて段差越えでお客様に声を掛けて前輪を上げて押し込む。この通りにやっていたら今回のトラブルになっていないということだな。

会社：はい。

組合：確認させて貰います。まごころサービスブックは、段差のことを書いている、スロープとは書いていない。

会社：列車も同様である。

組合：列車の段差とスロープは別である。スロープに関して認識を合わせます。

スロープを掛けているのに、前輪を上げる対応をしなかったと回答をしている。スロ

ープは段差解消のために掛けている。なぜ、前輪を上げないといけないのか。

会社：段差に相当するものがあつたからです。

組合：スロープに段差があることを認識されているのか。

会社：滑らかには乗り越えられない。

組合：滑らかに乗り越えられない、スロープをかけても段差が解消されないことを確認します。

会社：列車の車輪径が違う数ミリ変わることがある。

スロープを掛けても乗り越えられない場合がある。

組合：それを、段差と言います。

スロープを掛けても段差がある認識はあるのか。

会社：段差がある認識はない、スムーズに乗り越えできない要因がある。

組合：スムーズに乗り越えられない要因は何か。

会社：カントが急である。

組合：それは段差があるということだ。

会社：段差があると認識はない。

組合：滑らかだったら押し込んだらいける。

会社：段差と言っているところは斜めですね。スロープは万能ではない、当たっているのにバンバンやるのは違うと思う。

組合：それは係員の対応です。不具合について話をしている。

会社：（スロープ）万能ではない運用で前輪を上げて対応しているのではないか。

組合：それがおかしいから言っている、スロープを掛けているのに、係員の運用で対応するのは本末転倒である。スロープに不具合があるから去年も今回も申し入れをしている。係員の運用は二の次や、スロープに欠陥がある。その認識があるのか。新しいスロープを見たことがあるのか。乗ったことがあるのか。

会社：見たことがあるが乗ったことはない。

組合：一回現場に来てくれ乗らないとわからない。

前のダンロップスロープは良かった、でも N700S に対応出来ない。

会社：耐久性を考えて今になった。

組合：今の物は安全上に問題がある。スロープで後ろにひっくり返る事象が一回、二回ではない。係員が助けている。

会社：安全にはゴールがない。追求していく。

組合：不具合があるのははっきりしている欠陥商品である。お金を使ってでもやる。問題があるから改良である。お客様の転倒事故があつては遅い。

以 上